

青年期の「甘え」の心理に関する一研究  
——「困った」場面の分析を通して——

外山嘉奈子\*・高木 秀明\*\*

A Study of the “Amae” in Adolescence  
—— Analysis of the Embarrassed Situations ——

Kanako TOYAMA\*・Hideaki TAKAGI\*\*

**Abstract**

“Amae” means to take advantage of the other person or to behave like a spoiled child in Japan. The purpose of this study is to investigate the psychology of “Amae” in adolescence. So, we made the questionnaire to ask the psychology of “Amae”. That consisted of four embarrassed situations and four kinds of scales. Regarding every situation, the psychology of “Amae” was investigated by three kinds of scales; the scale of the desire of “Amae”, the scale of the expectation of acceptance of “Amae”, and the scale of the feeling of resistance to “Amae”. At the end of the questionnaire, we asked a view of values of “Amae”. The subjects were 231 junior high school students, 242 senior high school students, 293 university students in Japan.

The following results were obtained:

- (1) Adolescent females felt stronger desire of “Amae” than adolescent males.
- (2) Adolescent females expected more acceptance of their “Amae” in their parents than adolescent males.
- (3) Adolescent males felt stronger resistance to “Amae” than adolescent females.
- (4) Adolescent females had more positive view of values of “Amae” than adolescent males, and older adolescents had more positive view of values of “Amae” than younger adolescents.

**はじめに**

土居健郎の「甘え」理論が一応の完成をみて以来、30年近い年月が経過するが、今までなされてきた実証的研究は非常に少ない。その理由には、彼の理論が臨床の現場から得られたもので、定義に曖昧なところが多いこと、「甘え」の心理が意識と無意識の2領域にま

\* 関東学院大学カウンセリングセンター (Counseling Center, Kanto Gakuin University)

\*\* 心理学教室 (Dept. of Psychology)

たがっており、多くの葛藤を内包した複雑な性質のものであるため、数量的なアプローチをしにくいこと等が、あげられよう。

土居(1961, 1971)は「甘え」の心理について、「相手との一体感を求める感情」であり、「人間本来につきものの分離の事実を否定し、分離の痛みを止揚しようとする事」であると述べている。即ち、「甘え」の心理とは、精神的な分離独立を前提としながら、それを一時的に解消しようとする心の動きであり、主客合一と主客分離との葛藤を孕んだものと考えられる。同時にそれは、依存と独立の葛藤をも内包していると言えよう。土居(1971)はまた、甘えるためには、甘えられる側にある人間が、甘える立場の人間の意図を察し、それを受容してくれることが絶対条件であると考えた。相手次第で受け身的な側面をもつため、「甘え」の心理は、大変微妙で傷つき易い性質を帯びる訳である。さらに土居(1965)は、「甘え」の心理の根底に、依存欲求と等しい意味をもつ「甘え」の欲求を想定し、フロイドの理論とも照合させ、対象関係を成立させる自我の基本的欲求であるとした。このような「甘え」理論を中核とし、彼は自らの精神分析理論を構築している。

さて、「甘え」理論に対しては幾多の批判がなされているが、その多くは「甘え」の心理の定義付けや「甘え」の欲求の想定を巡るものであると考えられる。木村(1972)は、「甘え」を「すでに受け入れられ、一体化が成立している状態において勝手気儘な振る舞いをする事」と定義し、一体化を求める依存欲求を表す言葉とは違ふと述べた。小此木(1968)は、土居が精神病理学的な概念として用いる「甘え」は、日本人一般が「甘え」という言葉で理解する健康な「甘え」ではなく、母子分離に伴って生ずる依存欲求が、基本的信頼関係の中で、健康な「甘え」として自我化を受けることに失敗した結果生じる、神経症的な固着としての「甘え」であり、「成長力としての甘え」を無視していると批判した。さらに、西園(1968, 1988)は、土居の理論は精神状態現象としての「甘え」に注目するあまり、十分な発達論的視点を伴ったものとならなかったと述べた。祖父江(1972)は、相手により承認され、受容され、甘えさせてもらえるという期待を抱くことにより、暗黙のうちにも相手を当てにするという「甘え」の心理の特徴を考慮して、「甘え」とは「最初から相手が自分を受け入れてくれるであろうことを期待しながら、dependすること」であるとした。

土居は、西洋の精神分析ではあまり重視されていなかった、「甘え」のような依存欲求に着目し、独自の精神分析理論を形成しており、その点に大きな意義がある。だが、「甘え」理論は、まだ十分に客観化、系統化されたとは言えないようである。小此木や西園等の批判を踏まえ、今回は青年期男女に焦点を当てて、比較的健康な「甘え」の心理がいかなるものか、発達論的視点を交え、数量的に検討してゆきたい。「甘え」の操作的定義としては、前述の祖父江の定義を用いることとする。

## 目 的

青年期の「甘え」の現象について多面的に検討するため、数量的な研究に耐え得る質問紙を作成し、それを青年に実施し、分析を行なうことが、本研究の大まかな目的である。

「甘え」の心理に関する先行研究には、藤原・黒川(1981)のものがあり、この研究で

は11の状況と12の「甘え」の対象を設定し、両者の組合せの違いにより、「甘え」の欲求の程度が異なることを解明した。しかし、抽象的な表現で状況提示を行なっているため、各被験者の捉える状況のイメージはまちまちとなり、「甘え」の欲求について評定する際の状況の共通性には問題が残ると考える。そこで今回は一つの試みとして、物語形式で状況の提示を行なう。つまり、物語を提示し、自分が主人公になったと仮定した際の心の動きを予測させる方法で、「甘え」の心理に迫ることとし、状況や対象により、微妙に異なる「甘え」の心理を細かく検討することとする。さらに、「甘え」の心理の分析を行なう場合、「甘え」の欲求の検討のみに終始するのでは不十分と考えるので、幾つかの尺度を作成し、様々な角度から検討を行なう。これらの目的を以下にまとめる。

I. 青年期の「甘え」の心理を多面的に分析するため、「困った」場面の物語と以下の尺度を作成する。

- ①「甘え」に関する価値観
- ②「甘え」の欲求
- ③対象の受容に関する予測
- ④自分が甘えることへの抵抗感

II. 「困った」場面の物語を提示し、上記の尺度を用いることによって、青年期の「甘え」の心理を分析する。状況や対象の違いにより、「甘え」の心理に相違がみられるかを検討し、性差、発達差の観点からも分析を行なう。また、尺度間の関連についても検討する。

## 方 法

### 1. 質問紙の作成

青年期男女が何を「甘え」と捉えているか、知るため、大学生男女を対象に、予備調査を行なった。大学入学後の出来事で、「甘え」に関すると思われる事柄のうち、最も印象に残っているものを自由に記述するように、被験者への教示を行なった。調査の実施期日は1990年5月31日で、所要時間は15分程度であった。被験者は、横浜国立大学の2、3年生で、有効データは、合計142名（男子42名、女子100名）であった。

エピソード調査の結果、最も多かった内容は、「困った」状況が生じた際の心理的動きを記述したもので、依存と独立の葛藤を内包した性質のものであった。大学生一般が「甘え」と捉える現象は、勿論神経症的な固着としての「甘え」ではなかったが、純粋に「甘え」を楽しむ動きでもなく、「困った」場面において、依存しようか、否かの葛藤を起こしながらも、物理的、心理的に援助を求めていく、対人適応パターンであることが予想された。そこで今回は、「困った」場面の分析を通して、「甘え」の心理を探ってゆくこととした。

さて、「困った」場面のエピソードの中でも、最も多かったのは、金銭面で困った事態が生じた際の「甘え」と、挫折体験に遭遇し、精神的なダメージを受けた際の「甘え」であった。「甘え」の対象としては、両親が最も多く登場した。そこで便宜上、金銭に関するストーリーをA状況、挫折体験のストーリーをB状況とし、A状況・父親条件、B状況・父親条件、A状況・母親条件、B状況・母親条件の4通りの場面の物語を作成した。2つの「困った」状況のいずれかに、父親、母親のどちらかが登場する設定で、まず、大学生用の物語を作成し、それらが中学生、高校生に適當か、否か、中学校、高校の教師各3名に

検討を依頼した。その結果、A状況の物語には無理があるとの意見が多かったので、ストーリー展開や主人公の心理的動きを等しくする物語を、中学生、高校生用に新たに準備することとした。B状況については大学生と同じものを用い、表現を易しく改めた。被験者には4条件の場面それぞれについて、目的で取り上げた②～④の尺度の評定を行なってもらい、最後に①の尺度についても評定を求めることとした。

各尺度は、既成の尺度を参考にして筆者が作成し、大学生、大学院生に数回検討を依頼し、まとめたものである。「甘え」に関する価値観の尺度、「甘え」の欲求の尺度、対象の受容に関する予測の尺度は10項目で構成され、自分が甘えることへの抵抗感の尺度は5項目で構成されている。いずれも5段階評定である。

また、場面の提示順序により評定に歪みが生じるのを避けるため、提示順序が24通りになるよう、質問紙を組み替え、系列位置効果を相殺した。

## 2. 調査の実施

大学生においては、各授業の教官に授業時間を使わせてもらえるよう依頼し、筆者が調査を行なった。中学、高校においては、事前に筆者が担任教師に会い、質問紙の内容及教示の仕方等について説明した上で、担任教師に調査を委託した。

### (1) 教示

まず、以下のように教示を行なった。

「困った場面の物語が、幾つかあります。それぞれの物語を読み、もし、あなたがそのような経験をしたならば、どのような気持ちになるかについて、物語の主人公になったつもりで、答えて下さい。」

さらに、「甘え」というネガティブな印象をもつテーマを扱った調査内容に抵抗を示して、被験者がこうあるべきであるという理想にこだわって回答したり、茶化していい加減に答えたりすることがないように、自分の気持ちにできるだけ素直に、また真剣に答えてほしいと強調し、結果が歪められることのないよう、十分に配慮した。

### (2) 調査期日、及び調査対象

調査期日は、1990年9月27日～10月15日であった。調査は、神奈川県内の国立中学校1校4クラス、公立中学校1校3クラス、神奈川県内の公立高校2校6クラス、関東地方の私立大学1校1クラス、国立大学1校2クラスの生徒を対象に実施した。中学生と高校生はいずれも第2学年、大学生は第2～4学年であった。

さて、本調査は、青年期男女の両親に対する「甘え」の心理を探るものであるから、実際に両親が存在し、そのイメージが明確であることが望ましい。そこで父親、母親のどちらか、あるいはその両方が欠損している場合にはそのデータは省いた。その他、明らかにいい加減なものを除き、有効データは以下の通りとなった。

中学生231名（男子122名、女子109名）

高校生242名（男子128名、女子114名）

大学生293名（男子99名、女子194名）

## 結 果

### I. 各尺度の分析

結果の分析を行なう前に、作成した尺度の項目分析、及び信頼性の検定を行なった。まず、各尺度共、反転項目の評点を反転し、項目の合計得点を尺度得点として項目分析（G-P分析）を行なった。尺度得点の上位25%までにある被験者を上位群、下位25%までにある被験者を下位群とし、各尺度構成項目についてt検定を行なった結果、どの項目でも有意差がみられた。そこで各尺度共、どの項目にも特に問題がないと判断し、全項目を採用した。

次に、信頼性を吟味するため、クローンバックの $\alpha$ 係数を求めた。「甘え」に関する価値観の尺度の $\alpha$ 係数は0.75であった。他の尺度については、4条件の場面それぞれについて求めた。「甘え」の欲求の尺度では、 $\alpha$ 係数は0.90~0.91、対象の受容に関する予測の尺度では、 $\alpha$ 係数は0.81~0.85、自分が甘えることへの抵抗感の尺度では、 $\alpha$ 係数は0.83~0.90であった（表1）。

表1 各尺度の信頼性係数（ $\alpha$ 係数）

尺 度 名	物 語 の 条 件			
	A状況・父親	B状況・父親	A状況・母親	B状況・母親
「甘え」の欲求	0.91	0.90	0.90	0.91
対象の受容に関する予測	0.85	0.82	0.83	0.81
自分が甘えることへの抵抗感	0.90	0.90	0.83	0.83

### II. 尺度毎の検定

まず、尺度毎に性差、発達差の検定を行なった。

さらに、「甘え」の欲求、対象の受容に関する予測、自分が甘えることへの抵抗感の3つの尺度については、対象や状況の違いによって、「甘え」の心理に違いがみられるかを総合的に検討するため、物語の4条件の場面間の分散分析を行なった。

#### (1) 「甘え」の欲求

##### ①性差・発達差の検定

性差について検定するため、学校段階毎に尺度得点と各項目の得点に関してt検定を行なった（表2-1~表2-3）。尺度得点の検定の結果、中学生では、精神的にダメージを受けた状況で、「甘え」の対象が父親である場面（B状況・父親条件）では、男女共に「甘え」の欲求の得点が低く、有意差はなかったが、他の3条件では男子と比べて女子の得点が高く、有意差がみられた。高校生、大学生ではすべての条件で0.1%水準で、女子の方が有意に「甘え」の欲求が強かった。つまり、「甘え」の欲求の意識的なレベルにおいては、女子の方が他者に求めるものが大きいと言えよう。また、学校段階があがるにつれ、性差が大きくなる傾向があった。

項目毎にみると、どの学校段階でも、「甘えたい」「泣きたい」については、男子の得

点が低いのに比して、女子の得点が高く、性差が大きくなっている。「気持ちをわかってほしい」では、男子の得点も比較的高いが、女子の得点が飛躍的に高いため、性差が大きくなっている。「面倒をみてほしい」については、性差が小さかった。

表2-1 中学生両群の「甘え」の欲求の平均、標準偏差、及びt検定の結果

項目	A 状況・父親			B 状況・父親		
	平均(標準偏差)		t 値	平均(標準偏差)		t 値
	男子(N=122)	女子(N=109)	自由度=229	男子(N=122)	女子(N=109)	自由度=229
1, 頼りたい	2.88(1.46)	3.28(1.44)	2.13*	1.90(1.24)	2.00(1.23)	0.60
2, 何とかしてほしい	3.08(1.53)	3.32(1.40)	1.18	1.79(1.23)	1.66(0.98)	0.86
3, 甘えたい	1.98(1.25)	2.40(1.29)	2.56*	1.49(0.82)	1.72(0.97)	1.90
4, わがママを聞いてほしい	2.32(1.40)	2.91(1.30)	3.24***	1.63(1.00)	1.81(1.08)	1.29
5, 当てにしたい	2.78(1.49)	3.27(1.40)	2.55*	1.73(1.09)	1.76(1.08)	0.22
6, 気持ちをわかってほしい	2.38(1.38)	2.87(1.38)	2.72**	2.56(1.54)	2.81(1.52)	1.24
7, 泣つきたい	1.23(0.61)	1.49(0.88)	2.60**	1.41(0.83)	1.67(1.08)	2.03*
8, 慰めてほしい	1.44(0.88)	1.53(0.86)	0.78	1.61(1.05)	2.05(1.26)	2.89**
9, すがりたい	1.64(1.11)	1.74(1.11)	0.65	1.46(0.78)	1.46(0.76)	0.00
10, 面倒をみてほしい	1.87(1.21)	2.13(1.18)	1.65	1.52(0.87)	1.54(0.89)	0.21
尺度得点 (標準偏差)	21.59 (9.17)	24.93 (8.58)	** 2.86	17.09 (7.89)	18.47 (8.10)	1.31
項目	A 状況・母親			B 状況・母親		
	平均(標準偏差)		t 値	平均(標準偏差)		t 値
	男子(N=122)	女子(N=109)	自由度=229	男子(N=122)	女子(N=109)	自由度=229
1, 頼りたい	2.89(1.56)	3.78(1.23)	4.88***	1.98(1.26)	2.34(1.32)	2.15*
2, 何とかしてほしい	2.94(1.60)	3.72(1.26)	4.11***	1.84(1.21)	1.83(1.13)	0.07
3, 甘えたい	2.03(1.24)	2.75(1.34)	4.24***	1.65(1.06)	1.98(1.16)	2.29*
4, わがママを聞いてほしい	2.48(1.48)	3.11(1.43)	3.31***	1.79(1.17)	2.15(1.31)	2.20*
5, 当てにしたい	2.87(1.54)	3.49(1.32)	3.25***	1.93(1.21)	1.84(1.12)	0.54
6, 気持ちをわかってほしい	2.47(1.46)	3.23(1.35)	4.11***	2.67(1.53)	3.49(1.45)	4.14***
7, 泣つきたい	1.26(0.68)	1.59(0.96)	3.01**	1.48(0.96)	1.91(1.37)	2.94***
8, 慰めてほしい	1.48(0.89)	1.65(0.99)	1.91	1.68(1.06)	2.51(1.37)	5.19***
9, すがりたい	1.73(1.13)	2.05(1.32)	1.87	1.53(0.96)	1.54(0.83)	0.07
10, 面倒をみてほしい	1.98(1.32)	2.30(1.34)	0.50	1.65(1.08)	1.51(0.82)	1.05
尺度得点 (標準偏差)	22.13 (10.20)	27.66 (8.48)	*** 4.45	18.18 (9.05)	21.10 (8.25)	* 2.55

\* P < 0.05    \*\* P < 0.01    \*\*\* P < 0.001

表2-2 高校生両群の「甘え」の欲求の平均、標準偏差、及びt検定の結果

項目	A 状況・父親			B 状況・父親		
	平均 (標準偏差)		t 値 自由度=240	平均 (標準偏差)		t 値 自由度=240
	男子(N=128)	女子(N=114)		男子(N=128)	女子(N=114)	
1, 頼りたい	3.00(1.62)	3.83(1.28)	4.41***	1.71(1.02)	2.09(1.20)	2.70**
2, 何とかしてほしい	3.20(1.56)	3.78(1.31)	3.10**	1.39(0.77)	1.57(0.85)	1.73
3, 甘えたい	1.98(1.29)	2.75(1.55)	4.21***	1.34(0.71)	1.79(1.00)	4.10***
4, わがママを聞いてほしい	2.62(1.54)	3.28(1.52)	3.37***	1.65(1.34)	1.84(1.11)	1.34
5, 当てにしたい	3.13(1.62)	3.78(1.33)	3.37***	1.50(0.84)	1.68(0.96)	1.66
6, 気持ちをわかってほしい	2.57(1.54)	3.24(1.49)	3.41***	2.66(1.54)	3.34(1.47)	3.50***
7, 泣つきたい	1.17(0.44)	1.52(0.88)	3.95***	1.17(0.55)	1.75(1.14)	5.19***
8, 慰めてほしい	1.19(0.47)	1.41(0.79)	2.74**	1.40(0.87)	2.34(1.41)	6.32***
9, すがりたい	1.95(1.34)	2.46(1.52)	2.83**	1.19(0.53)	1.46(0.74)	3.24***
10, 面倒をみてほしい	2.38(1.54)	2.84(1.55)	2.31*	1.30(0.69)	1.39(0.67)	1.01
尺度得点 (標準偏差)	23.18 (10.04)	28.89 (9.56)	*** 4.51	15.30 (6.12)	19.26 (7.25)	*** 4.60
項目	A 状況・母親			B 状況・母親		
	平均 (標準偏差)		t 値 自由度=240	平均 (標準偏差)		t 値 自由度=240
	男子(N=128)	女子(N=114)		男子(N=128)	女子(N=114)	
1, 頼りたい	3.47(1.57)	4.08(1.11)	3.46***	1.78(1.06)	2.73(1.44)	5.89***
2, 何とかしてほしい	3.59(1.50)	3.92(1.21)	1.91	1.51(0.84)	1.84(1.13)	2.59**
3, 甘えたい	2.06(1.30)	3.14(1.44)	6.13***	1.55(0.85)	2.35(1.41)	3.11**
4, わがママを聞いてほしい	2.88(1.60)	3.61(1.37)	3.84***	1.90(1.24)	2.44(1.46)	3.16**
5, 当てにしたい	3.50(1.56)	4.01(1.14)	2.87*	1.50(0.79)	1.88(1.06)	7.19***
6, 気持ちをわかってほしい	2.86(1.57)	3.38(1.37)	2.72*	2.65(1.53)	3.93(1.24)	6.29***
7, 泣つきたい	1.23(0.57)	1.56(0.94)	3.31**	1.30(0.66)	2.20(1.39)	7.90***
8, 慰めてほしい	1.26(0.61)	1.64(0.99)	3.68***	1.73(1.16)	3.10(1.50)	8.01***
9, すがりたい	2.24(1.58)	2.62(1.56)	1.88	1.36(0.70)	1.82(1.11)	3.76***
10, 面倒をみてほしい	2.52(1.54)	2.98(1.51)	2.37*	1.38(0.74)	1.67(1.00)	2.49*
尺度得点 (標準偏差)	25.60 (9.75)	30.95 (8.93)	*** 4.43	16.66 (6.92)	23.94 (8.98)	*** 7.01

\* P < 0.05      \*\* P < 0.01      \*\*\* P < 0.001

表2-3 大学生両群の「甘え」の欲求の平均, 標準偏差, 及びt検定の結果

項 目	A 状 況 ・ 父 親			B 状 況 ・ 父 親		
	平均 (標準偏差)		t 値 自由度=291	平均 (標準偏差)		t 値 自由度=291
	男子(N= 99)	女子(N=194)		男子(N= 99)	女子(N=194)	
1, 頼りたい	3.53(1.36)	3.94(1.22)	2.67**	1.44(0.82)	2.15(1.20)	5.95***
2, 何とかしてほしい	3.34(1.42)	3.75(1.31)	2.46*	1.33(0.70)	1.59(0.92)	2.68**
3, 甘えたい	2.51(1.48)	3.27(1.39)	4.31***	1.32(0.70)	1.95(1.15)	5.77***
4, わがママを聞いてほしい	2.94(1.43)	3.45(1.41)	2.94**	1.43(0.90)	1.87(1.15)	3.58***
5, 当てにしたい	3.71(1.30)	3.76(1.35)	0.34	1.40(0.82)	1.62(0.95)	2.00
6, 気持ちをわかってほしい	2.86(1.41)	3.51(1.29)	3.98***	2.52(1.42)	3.31(1.43)	4.54***
7, 泣つきたい	1.48(0.87)	1.92(1.11)	3.38***	1.24(0.57)	1.69(0.97)	4.90***
8, 慰めてほしい	1.43(0.84)	1.84(1.06)	3.29***	1.48(0.83)	2.48(1.41)	7.63***
9, すがりたい	2.14(1.43)	2.72(1.41)	3.29***	1.31(0.70)	1.56(0.90)	2.56*
10, 面倒をみてほしい	2.83(1.55)	3.02(1.44)	1.05	1.28(0.59)	1.48(0.84)	2.39*
尺度得点 (標準偏差)	26.78 (9.97)	31.19 (9.50)	*** 3.69	14.78 (6.30)	19.71 (7.82)	*** 5.83
項 目	A 状 況 ・ 母 親			B 状 況 ・ 母 親		
	平均 (標準偏差)		t 値 自由度=291	平均 (標準偏差)		t 値 自由度=291
	男子(N= 99)	女子(N=194)		男子(N= 99)	女子(N=194)	
1, 頼りたい	3.53(1.37)	4.26(0.91)	4.82***	1.55(0.93)	2.69(1.31)	4.93***
2, 何とかしてほしい	3.26(1.55)	3.90(1.12)	3.62***	1.38(0.88)	1.83(1.11)	8.63***
3, 甘えたい	2.57(1.48)	3.52(1.31)	5.41***	1.57(0.95)	2.68(1.41)	3.75***
4, わがママを聞いてほしい	2.87(1.58)	3.63(1.25)	4.19***	1.60(1.03)	2.60(1.48)	8.02***
5, 当てにしたい	3.59(1.42)	4.07(1.12)	2.94**	1.38(0.81)	1.93(1.18)	6.71***
6, 気持ちをわかってほしい	2.89(1.42)	3.80(1.18)	5.52***	2.81(0.51)	3.95(1.28)	4.65***
7, 泣つきたい	1.47(0.84)	2.19(1.26)	5.75***	1.33(0.76)	2.43(1.37)	6.78***
8, 慰めてほしい	1.38(0.80)	1.97(1.14)	5.16***	1.67(1.17)	3.19(1.48)	8.80***
9, すがりたい	2.43(1.52)	3.01(1.42)	3.16***	1.36(0.80)	2.05(1.16)	9.57***
10, 面倒をみてほしい	2.80(1.41)	3.11(1.41)	1.77	1.37(0.75)	1.77(1.06)	5.94***
尺度得点 (標準偏差)	26.86 (10.58)	33.46 (8.44)	*** 5.37	16.02 (7.59)	25.16 (9.63)	*** 8.87

\* P &lt; 0.05    \*\* P &lt; 0.01    \*\*\* P &lt; 0.001



次に、各項目の得点をもとにプロフィールを描き、詳しい検討を行なった結果、学校段階、性別を問わず、状況が同じ場合には、プロフィールの傾向は比較的良く似ていた(図1-1~図3-4)。金銭的に困った状況(A状況)では、「頼りたい」「何とかしてほしい」「当てにしたい」の現実的な援助を期待する内容の項目の得点が、他項目より高めであった。精神的なダメージを受けた状況(B状況)では、「気持ちをわかってほしい」(男女共)、「慰めてほしい」(女子のみ)の精神的なフォローを求める内容の項目の得点が高かった。従って、「甘え」の心理の内容は、状況により異なると言えよう。

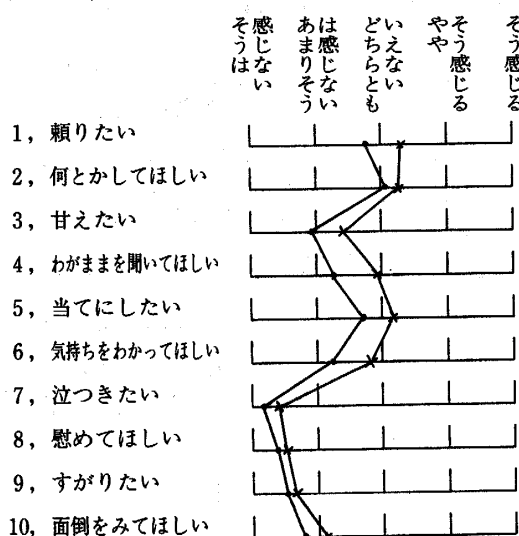


図1-1 中学生の「甘え」の欲求  
〈A状況・父親〉

男子群→ 女子群×

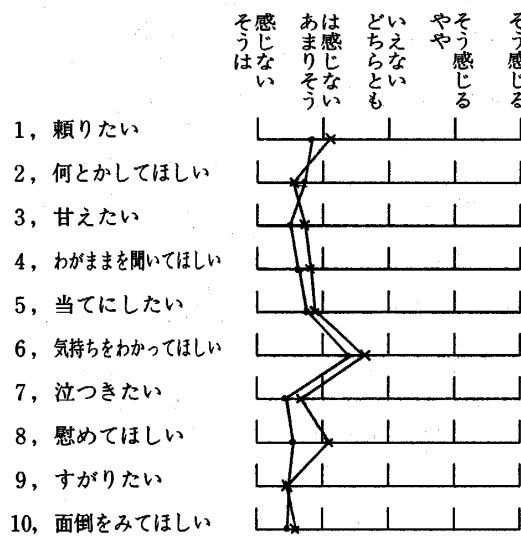


図1-2 中学生の「甘え」の欲求  
〈B状況・父親〉

男子群→ 女子群×

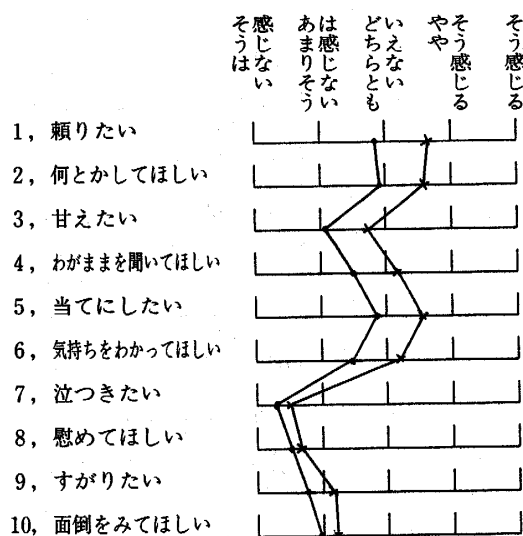


図1-3 中学生の「甘え」の欲求  
〈A状況・母親〉

男子群→ 女子群×

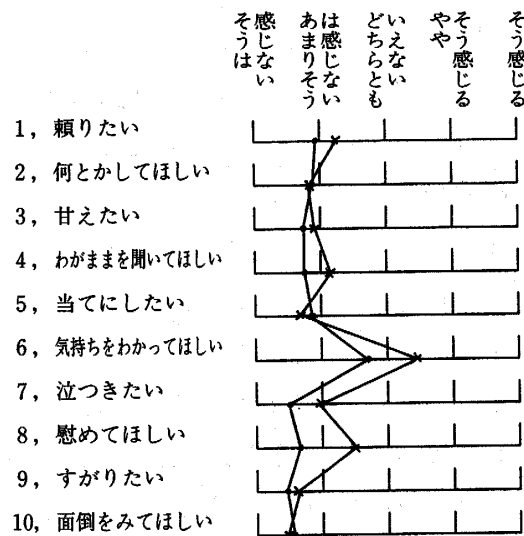


図1-4 中学生の「甘え」の欲求  
〈B状況・母親〉

男子群→ 女子群×

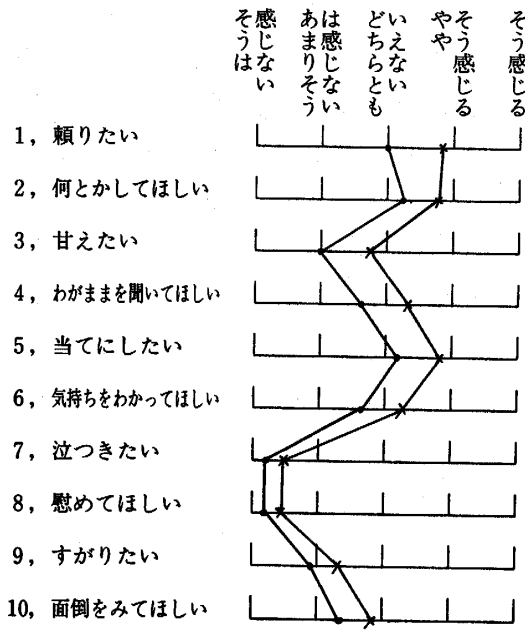


図 2-1 高校生の「甘え」の欲求  
 <A 状況・父親>  
 男子群—— 女子群×——×

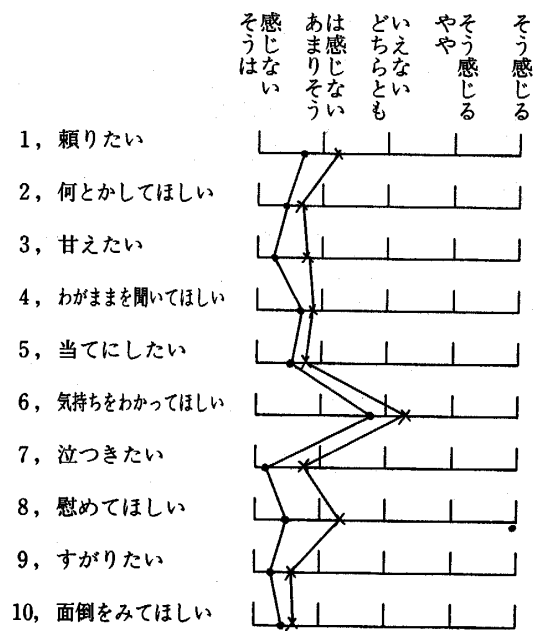


図 2-2 高校生の「甘え」の欲求  
 <B 状況・父親>  
 男子群—— 女子群×——×

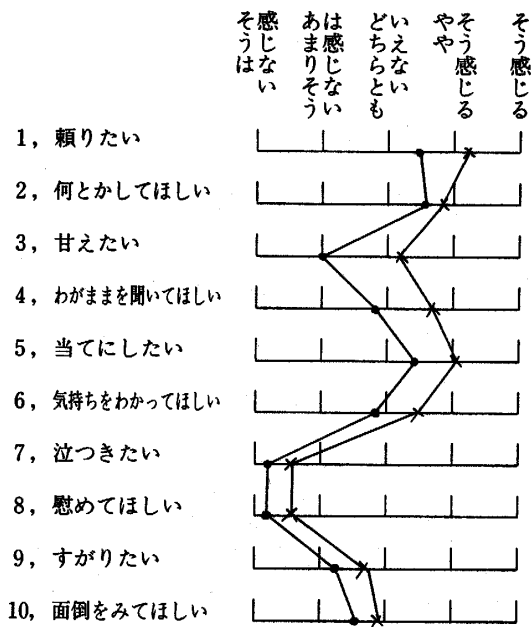


図 2-3 高校生の「甘え」の欲求  
 <A 状況・母親>  
 男子群—— 女子群×——×

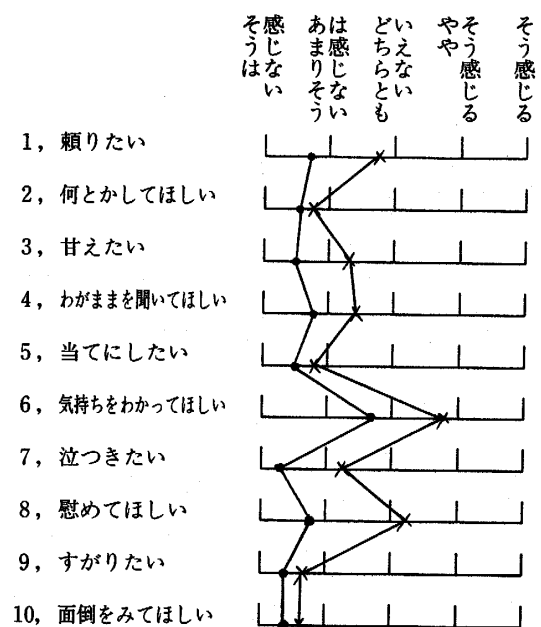


図 2-4 高校生の「甘え」の欲求  
 <B 状況・母親>  
 男子群—— 女子群×——×

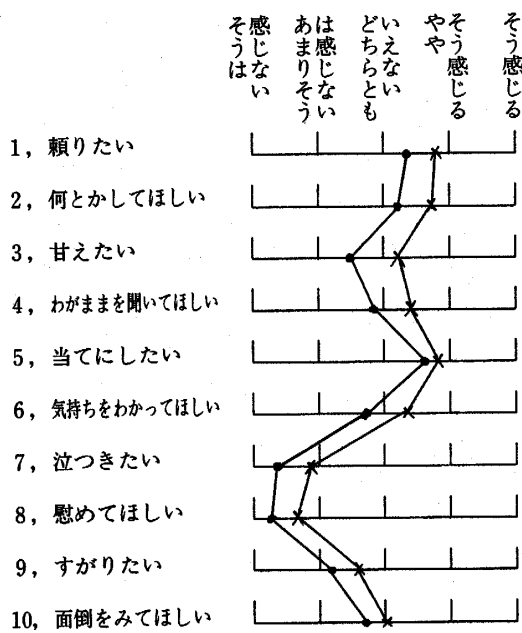


図3-1 大学生の「甘え」の欲求  
 <A状況・父親>  
 男子群—— 女子群×——×

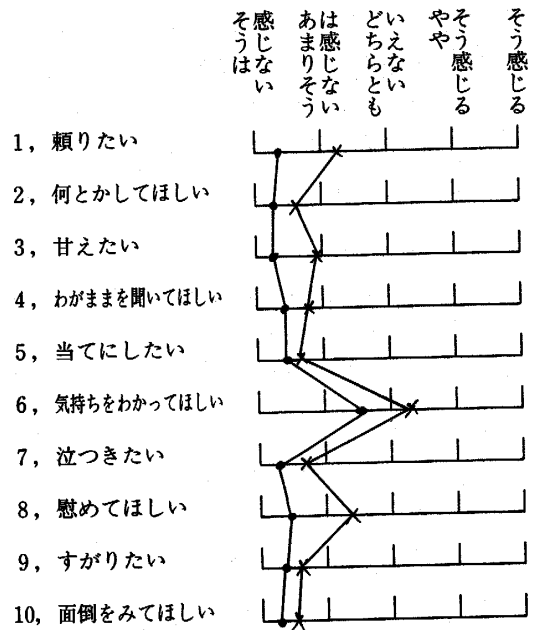


図3-2 大学生の「甘え」の欲求  
 <B状況・父親>  
 男子群—— 女子群×——×

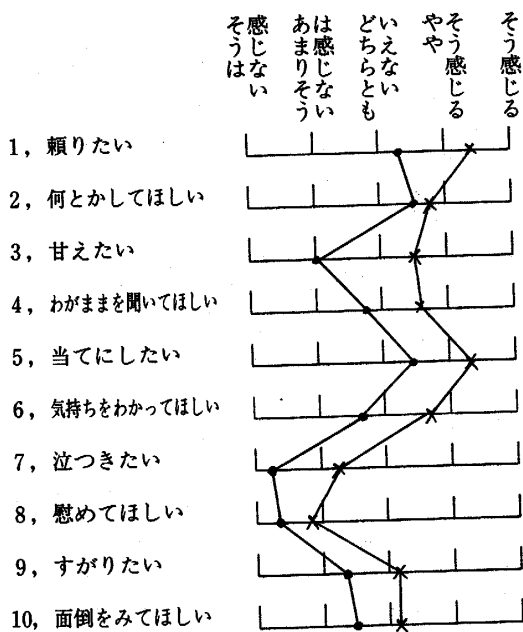


図3-3 大学生の「甘え」の欲求  
 <A状況・母親>  
 男子群—— 女子群×——×

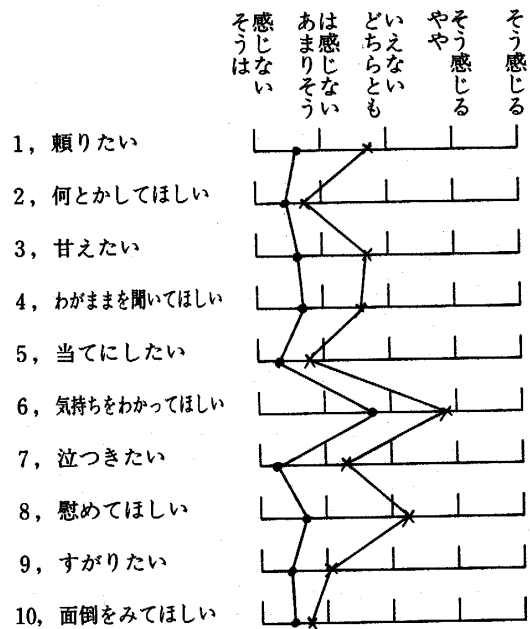


図3-4 大学生の「甘え」の欲求  
 <B状況・母親>  
 男子群—— 女子群×——×

発達差については、男女それぞれについて、A状況では同じ質問紙を用いた中学生、高校生間のt検定を、B状況では3群間の分散分析を行なった(表3-1~表3-2)。まず、金銭的に困った状況(A状況)では、男子は、母親を対象とした場面で、1%水準で高校生が中学生より、「甘え」の欲求が強かった。女子では、父親を対象とした場面では0.1%水準、母親を対象とした場面では1%水準で、同様のことが言える。精神的なダメージを受けた状況(B状況)では、男子は年齢の増加に伴い、父親から精神的に独立する傾向が強くなり、父親への「甘え」の欲求は、高校生、大学生が共に5%水準で、中学生より有意に低い。女子では年齢の増加に伴い、母親への依存傾向が強くなり、母親を対象とした場合の「甘え」の欲求は、大学生が1%水準、高校生が5%水準で、中学生より有意に強い。

表3-1 「甘え」の欲求の発達差&lt;A状況&gt;

対象	性別	平均(標準偏差)		t値 自由度=221
		中学生	高校生	
父親	男子	21.59 (9.17)	23.18 (10.04)	1.13
	女子	24.93 (8.58)	28.89 (9.56)	*** 3.25
母親	男子	22.13 (10.20)	25.60 (9.75)	** 2.75
	女子	27.66 (8.48)	30.95 (8.93)	** 2.82

\*\*P&lt;0.01 \*\*\*P&lt;0.001

表3-2 「甘え」の欲求の発達差&lt;B状況&gt;

対象	性別	平均(標準偏差)			分散分析の結果		
		中学生	高校生	大学生	中学生×高校生	中学生×大学生	高校生×大学生
父親	男子	17.09 (7.89)	15.30 (6.12)	14.78 (6.30)	*	*	
	女子	18.47 (8.10)	19.26 (7.25)	19.71 (7.82)			
母親	男子	18.18 (9.05)	16.66 (6.92)	16.02 (7.59)			
	女子	21.10 (8.25)	23.94 (8.98)	25.16 (9.63)	*	**	

\*P&lt;0.05 \*\*P&lt;0.01

## ②4条件の場面間の検定

被験者群毎に、「甘え」の欲求に関して分散分析を行なった(表4)。女子の3群と高校

生男子ではすべての検定で有意差がみられ、状況や対象の組合せの違いによって、「甘え」の欲求は明らかに異なっていた。特に高校生男子と大学生女子では、すべての検定で1%水準で有意差があり、条件間の違いは顕著である。中学生、大学生の男子では、同じ状況での父親と母親に対する「甘え」の欲求には有意差がなかったものの、他の比較ではすべてで有意差がみられ、やはり状況や対象の組合せにより、「甘え」の欲求は微妙に違ってくると言えよう。

表4 「甘え」の欲求の分散分析

被験者群	条件毎の平均 (標準偏差)				分散分析の結果					
	1 (A状況・父)	2 (B状況・父)	3 (A状況・母)	4 (B状況・母)	1×2	1×3	1×4	2×3	2×4	3×4
中学生男子	21.59 ( 9.17)	17.09 ( 7.89)	22.13 (10.20)	18.18 ( 9.05)	**		**	**		**
中学生女子	24.93 ( 8.58)	18.47 ( 8.10)	27.66 ( 8.48)	21.10 ( 8.25)	**	**	**	**	*	**
高校生男子	23.18 (10.04)	15.30 ( 6.12)	25.60 ( 9.75)	16.66 ( 6.92)	**	**	**	**	**	**
高校生女子	28.89 ( 9.56)	19.26 ( 7.25)	30.95 ( 8.93)	23.94 ( 8.98)	**	*	**	**	**	**
大学生男子	26.78 ( 9.97)	14.78 ( 6.30)	26.86 (10.58)	16.02 ( 7.59)	**		**	**		**
大学生女子	31.19 ( 9.50)	19.71 ( 7.82)	33.46 ( 8.44)	25.16 ( 9.63)	**	**	**	**	**	**

\* p < 0.05      \*\* p < 0.01

(注) A状況・父親条件を条件1, B状況・父親条件を条件2, A状況・母親条件を条件3, B状況・母親条件を条件4とする。

(2) 対象の受容に関する予測

①性差・発達差の検定

性差を検討するため、尺度得点のt検定を行なった(表5)。その結果、学校段階を問わず、どの条件でも女子が男子より、対象が自分を受容してくれるとの予測を有意に行ない、対象の受容に関してより肯定的に捉えていた。特に、精神的なダメージを受けた状況(B状況)で、「甘え」の対象が母親である場面(B状況・母親条件)では、各学校段階共、0.1%水準の有意差があった。女子では、この条件での得点が他と比較して高いため、母親が精神的に支えてくれるとの期待感が強いと考えられる。

発達差については、A状況では中学生、高校生間のt検定を、B状況では3群間の分散分析を行なった(表6-1~表6-2)。男子では、精神的にダメージを受けた状況(B状況)の母親の受容に関して、大学生が1%水準で中学生よりも、5%水準で高校生よりも、有意に肯定的な予測をしていた。女子では年齢があがるにつれ、受容的な予測を行なう傾向にあった。精神的なダメージを受けた状況(B状況)では、父親の受容に関しては大学生が1%水準、高校生が5%水準で、中学生より有意に肯定的な予測を行ない、母親の受

容に関しては、高校生、大学生が共に1%水準で、中学生より有意に肯定的な予測を行っていた。金銭的に困った状況（A状況）でも、父親に対しては、高校生が1%水準で中学生より有意に肯定的な予測を行っていた。

表5 対象の受容に関する予測の各被験者群の平均、標準偏差、及び学校段階毎の性差の検定

学 校	性 別	人 数	尺 度 得 点 の 平 均 ( 標 準 偏 差 )				性 差 の 検 定				
			A状況・父親	B状況・父親	A状況・母親	B状況・母親	自由度	t 値			
								A状況・父親	B状況・父親	A状況・母親	B状況・母親
中 学	男 子	122	30.84 ( 6.53)	31.78 ( 7.02)	30.43 ( 7.41)	31.98 ( 6.68)	229	*	*	***	***
	女 子	109	33.71 ( 7.20)	33.61 ( 7.02)	33.14 ( 7.16)	35.38 ( 6.75)		2.40	1.98	4.45	3.84
高 校	男 子	128	30.29 ( 8.29)	30.34 ( 7.94)	30.98 ( 7.65)	32.78 ( 7.46)	240	***	***	***	***
	女 子	114	36.01 ( 7.78)	35.77 ( 5.94)	34.46 ( 7.26)	37.61 ( 5.48)		5.52	6.06	3.62	5.81
大 学	男 子	99	33.80 ( 7.00)	31.84 ( 6.15)	35.31 ( 6.74)	34.61 ( 6.76)	291	***	***	*	***
	女 子	194	37.32 ( 8.05)	37.13 ( 7.03)	37.25 ( 6.98)	38.78 ( 6.37)		3.70	6.35	2.27	5.20

\* P < 0.05      \*\*\* P < 0.001

表6-1 対象の受容に関する予測の発達差< A状況>

対 象	性 別	平均 (標準偏差)		t 値 自由度=221 ~248
		中学生	高校生	
父 親	男 子	30.84 ( 6.53)	30.29 ( 8.29)	0.59 ** 2.98
	女 子	33.01 ( 7.20)	36.01 ( 7.78)	
母 親	男 子	30.43 ( 7.41)	30.98 ( 7.65)	0.59 1.37
	女 子	33.14 ( 7.16)	34.46 ( 7.26)	

\*\* P < 0.01

#### ② 4条件の場面間の検定

対象の受容に関する予測について、分散分析を行なった結果、比較を行なった条件の組合せによっては有意差があった(表7)。高校生女子では最も有意差があり、対象の受容の予測に関して、非常に繊細であると言える。また、どの被験者群でも、精神的にダメージを受けた状況で、「甘え」の対象が母親である場面（B状況・母親条件）では、他の3つの条件と比較して、肯定的な予測がなされているため、検定の結果、有意差のみられるもの

も多い。

表6-2 対象の受容に関する予測の発達差〈B状況〉

対象	性別	平均 (標準偏差)			分散分析の結果		
		中学生	高校生	大学生	中学生×高校生	中学生×大学生	高校生×大学生
父親	男子	31.98 (7.08)	30.34 (7.94)	31.84 (6.15)			
	女子	33.61 (7.02)	35.77 (5.94)	37.13 (7.03)	*	**	
母親	男子	31.98 (6.68)	32.76 (7.46)	34.61 (6.76)		**	*
	女子	31.98 (6.75)	37.61 (5.48)	38.78 (6.37)	**	**	

\* P < 0.05    \*\* P < 0.01

表7 対象の受容に関する予測の分散分析

被験者群	条件毎の平均 (標準偏差)				分散分析の結果					
	1 (A状況・父)	2 (B状況・父)	3 (A状況・母)	4 (B状況・母)	1×2	1×3	1×4	2×3	2×4	3×4
中学生男子	30.84 (6.53)	31.78 (7.08)	30.43 (7.41)	31.98 (6.68)						*
中学生女子	33.01 (7.20)	33.61 (7.02)	33.14 (7.16)	35.38 (6.75)			*		*	*
高校生男子	30.29 (8.29)	30.34 (7.94)	30.98 (7.65)	32.76 (7.46)			**		*	*
高校生女子	36.01 (7.78)	35.77 (5.94)	34.46 (7.26)	37.61 (5.48)		**	**	**	**	**
大学生男子	33.80 (7.00)	31.84 (6.15)	35.31 (6.74)	34.61 (6.76)	*			**	**	
大学生女子	37.32 (8.05)	37.13 (7.03)	37.25 (6.98)	38.78 (6.37)			*		*	*

\* P < 0.05    \*\* P < 0.01

(注) A状況・父親条件を条件1, B状況・父親条件を条件2, A状況・母親条件を条件3, B状況・母親条件を条件4とする。

### (3) 自分が甘えることへの抵抗感

#### ①性差・発達差の検定

性差を検討するため、尺度得点についてt検定を行なった結果、学校段階を問わず、どの条件でも男子の方が甘えることへの抵抗感が有意に強かった(表8)。特に高校生、大学生では4条件共、有意差は0.1%水準であり、学校段階があがるにつれ、性差は顕著となった。

表8 自分が甘えることへの抵抗感の各被験者群の平均、標準偏差、及び学校段階毎の性差の検定

学 校	性 別	人 数	尺 度 得 点 の 平 均 ( 標 準 偏 差 )				性 差 の 検 定				
			A状況・父親	B状況・父親	A状況・母親	B状況・母親	自由度	t 値			
								A状況・父親	B状況・父親	A状況・母親	B状況・母親
中 学	男 子	122	17.36 (4.76)	17.48 (5.16)	17.04 (4.75)	17.79 (4.92)	229	*** 4.42	* 2.81	*** 4.69	*** 5.06
	女 子	109	14.62 (4.67)	15.55 (5.23)	14.06 (4.88)	14.42 (5.20)		*** 5.53	*** 5.80	*** 5.61	*** 7.84
高 校	男 子	128	17.99 (5.35)	18.99 (4.94)	17.08 (5.60)	18.63 (4.95)	240	*** 6.14	*** 6.78	*** 6.82	*** 8.39
	女 子	114	14.33 (4.81)	15.29 (4.98)	13.41 (4.40)	13.68 (4.85)		*** 6.14	*** 6.78	*** 6.82	*** 8.39
大 学	男 子	99	18.50 (4.84)	19.45 (4.20)	18.17 (4.92)	19.07 (4.67)	291	*** 6.14	*** 6.78	*** 6.82	*** 8.39
	女 子	194	14.80 (4.90)	15.65 (4.71)	14.18 (4.64)	14.19 (4.73)		*** 6.14	*** 6.78	*** 6.82	*** 8.39

\* P &lt; 0.05    \*\*\* P &lt; 0.001

発達差に関しては、A状況では中学生、高校生間のt検定を、B状況では3群間の分散分析を行なった(表9-1~表9-2)。その結果、男子では、金銭的に困った状況(A状況)の2条件では発達の差異はなかったが、精神的なダメージを受けた状況で、「甘え」の対象が父親である場面(B状況・父親条件)で、有意差がみられた。年齢があがるにつれて、父親に甘えることへの抵抗感が強くなる傾向にあり、高校生は5%水準、大学生は1%水準で、中学生よりも得点が有意に高かった。女子では4条件共有意差はなく、抵抗感についての発達の差異は認められなかった。

表9-1 自分が甘えることへの抵抗感の発達差(A状況)

対 象	性 別	平均 (標準偏差)		t 値 自由度=221 ~248
		中学生	高校生	
父 親	男 子	17.36 (4.73)	17.99 (5.35)	0.95
	女 子	14.62 (4.67)	14.33 (4.81)	
母 親	男 子	17.94 (4.75)	17.08 (5.60)	0.06
	女 子	14.06 (4.88)	13.41 (4.40)	



表9-2 自分が甘えることへの抵抗感の発達差〈B状況〉

対象	性別	平均 (標準偏差)			分散分析の結果		
		中学生	高校生	大学生	中学生×高校生	中学生×大学生	高校生×大学生
父親	男子	17.48 (5.16)	18.99 (4.94)	19.45 (4.20)	*	**	
	女子	15.55 (5.23)	15.29 (4.98)	15.65 (4.71)			
母親	男子	17.79 (4.92)	18.63 (4.95)	19.07 (4.67)			
	女子	14.42 (5.20)	13.68 (4.85)	14.19 (4.73)			

\* P < 0.05    \*\* P < 0.01

② 4条件の場面間の検定

被験者群毎に、甘えることへの抵抗感について、物語の4条件の場面間の分散分析を行った(表10)。その結果、「甘え」の欲求程顕著な差はみられなかったが、状況や対象の組合せにより、抵抗感も異なる傾向にあった。中学生よりも高校生、大学生で、条件間に多くの有意差がみられ、年齢があがるにつれ、対象や状況の違いにより、甘えることへの抵抗感が微妙に違ってることがわかる。精神的なダメージを受けた状況で、「甘え」の対象が父親である場面(B状況・父親条件)と、金銭的に困った状況で、「甘え」の対象が母親である場面(A状況・母親条件)の間には、最も顕著な有意差があり、4条件の中では、前者が最も抵抗感が強く、後者が最も抵抗感が低い条件であると言える。

(4) 「甘え」に関する価値観

性差を検討するため、尺度得点についてt検定を行ない、発達差に関しては、男女それぞれに3群間の分散分析を行なった(表11)。性差に関しては、各学校段階共、女子の方が男子より、有意に価値観が肯定的であり、性差は中学生で最も大きかった。発達差に関しては、男女それぞれに3群間の分散分析を行なった。男子では、高校生が5%水準、大学生が1%水準で、「甘え」に関する価値観が中学生よりも、有意に肯定的であった。女子では、大学生が中学生、高校生よりも5%水準で、有意に価値観が肯定的であった。男女共、年齢があがるにつれ、価値観が漸進的に肯定的になり、性差が小さくなっていくことがわかる。

Ⅲ. 尺度間の相関

尺度間に相関がみられるか、吟味した。即ち、「甘え」の欲求、対象の受容に関する予測、自分が甘えることへの抵抗感の尺度に関して、それぞれピアソンの相関係数を求め、その有意性の検定を行なった。

(1) 「甘え」の欲求と対象の受容に関する予測

ピアソンの相関係数を求めた結果、すべての被験者群のどの条件においても、正の相関

がみられた(表12)。「甘え」の欲求と対象の受容に関する予測の間には、関連がみられる。

表10 自分が甘えることへの抵抗感の分散分析

被験者群	条件毎の平均(標準偏差)				分散分析の結果					
	1(A状況・父)	2(B状況・父)	3(A状況・母)	4(B状況・母)	1×2	1×3	1×4	2×3	2×4	3×4
中学生男子	17.36 (4.73)	17.48 (5.15)	17.04 (4.75)	17.79 (4.92)						
中学生女子	14.62 (4.67)	15.55 (5.23)	14.06 (4.88)	14.42 (5.20)				*		
高校生男子	17.99 (5.35)	18.99 (4.94)	17.08 (5.60)	18.63 (4.95)	*			**		**
高校生女子	14.33 (4.81)	15.29 (4.98)	13.41 (4.40)	13.68 (4.85)	*	*		**	**	
大学生男子	18.50 (4.84)	19.45 (4.20)	18.17 (4.92)	19.07 (4.67)				**		
大学生女子	14.80 (4.90)	15.65 (4.71)	14.18 (4.64)	14.19 (4.73)	*			**	**	

\* P < 0.05    \*\* P < 0.01

(注) A状況・父親条件を条件1, B状況・父親条件を条件2, A状況・母親条件を条件3, B状況・母親条件を条件4とする。

表11 「甘え」に関する価値観の平均, 標準偏差, 及び性差, 発達差の検定

学校	性別	人数	平均 (標準偏差)	性差の検定		発達差の検定					
				自由度	t 値	男子			女子		
						中学 ×高校	中学 ×大学	高校 ×大学	中学 ×高校	中学 ×大学	高校 ×大学
中 学	男子	122	27.00(6.09)	229	*** 6.22						
	女子	109	31.81(5.92)								
高 校	男子	128	29.98(6.47)	240	*** 3.72	*	**			*	*
	女子	114	31.82(5.32)								
大 学	男子	99	30.56(6.55)	291	*** 3.72						
	女子	194	33.39(5.39)								

\* P < 0.05    \*\* P < 0.01    \*\*\* P < 0.001

## (2) 「甘え」の欲求と自分が甘えることへの抵抗感

ピアソンの相関係数を求めた結果, 高校生女子, 大学生男女では4条件共, 負の相関がみられた(表13)。中学生女子, 高校生男子でも金銭的に困った状況(A状況)の2条件で負の相関がみられた。中学生男子では, 相関は全くみられなかった。

(3) 対象の受容に関する予測と自分が甘えることへの抵抗感

ピアソンの相関係数を求めた(表14)。その結果、女子の3群では4条件共負の相関がみられ、対象の受容に関する予測と甘えることへの抵抗感の間には関連がみられた。中学生男子でも4条件で相関がみられたが、高校生男子では、金銭的に困った状況で、「甘え」の対象が父親である場面(A状況・父親条件)で、大学生男子では、金銭的に困った状況で、「甘え」の対象が母親である場面(A状況・母親条件)で、相関があるのみであった。

表12 「甘え」の欲求と対象の受容に関する予測の相関係数

A状況・父親						B状況・父親					
中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子	大学生男子	大学生女子	中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子	大学生男子	大学生女子
*** 0.30	*** 0.48	*** 0.55	*** 0.38	** 0.31	*** 0.34	** 0.26	* 0.22	* 0.19	* 0.24	* 0.21	*** 0.26
A状況・母親						B状況・母親					
中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子	大学生男子	大学生女子	中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子	大学生男子	大学生女子
*** 0.32	*** 0.44	*** 0.30	*** 0.31	** 0.27	** 0.23	* 0.22	*** 0.34	*** 0.34	*** 0.43	** 0.26	*** 0.41

\* P < 0.05    \*\* P < 0.01    \*\*\* P < 0.001

表13 「甘え」の欲求と自分が甘えることへの抵抗感の相関係数

A状況・父親						B状況・父親					
中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子	大学生男子	大学生女子	中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子	大学生男子	大学生女子
-0.16	*** -0.39	*** -0.46	*** -0.38	*** -0.38	*** -0.33	-0.10	-0.18	-0.06	*** -0.31	** -0.30	*** -0.33
A状況・母親						B状況・母親					
中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子	大学生男子	大学生女子	中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子	大学生男子	大学生女子
-0.16	** -0.28	*** -0.35	** -0.28	*** -0.33	*** -0.32	-0.13	-0.11	-0.08	*** -0.28	** -0.26	*** -0.41

\* P < 0.05    \*\* P < 0.01    \*\*\* P < 0.001

表14 対象の受容に関する予測と自分が甘えることへの抵抗感の相関係数

A状況・父親						B状況・父親					
中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子	大学生男子	大学生女子	中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子	大学生男子	大学生女子
*** -0.37	*** -0.45	*** -0.28	*** -0.33	-0.05	*** -0.25	** -0.26	*** -0.36	-0.15	** -0.27	-0.04	*** -0.25
A状況・母親						B状況・母親					
中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子	大学生男子	大学生女子	中学生男子	中学生女子	高校生男子	高校生女子	大学生男子	大学生女子
** -0.26	*** -0.39	-0.14	*** -0.28	* -0.24	*** -0.38	*** -0.31	*** -0.38	-0.01	*** -0.41	-0.17	*** -0.37

\* P < 0.05    \*\* P < 0.01    \*\*\* P < 0.001

## 考 察

### I. 「甘え」の欲求についての考察

意識的なレベルでの「甘え」の欲求は、女子の方が強く、年齢があがるにつれ、性差は広がっていく。高橋（1968, 1969）の研究をはじめとする、依存性に関する多くの質問紙調査でも、女子の方が依存欲求が強いという結果が得られており、「甘え」をも含めた依存という面においては、確かに意識的なレベルでは、女子の方が他者に求めるものが大きいと言えよう。一方、男子では甘えることへの抵抗感が強いいため、「甘え」の欲求が意識的、無意識的に抑圧されているという可能性も考えられる。

さらに、「甘え」の欲求は状況や対象により、微妙に異なると解明された。2対象を比較した場合は、父親よりも母親への「甘え」の欲求が強い傾向にあった。土居（1961）によれば、「甘え」の心理とはそもそも、「母子一体感の再現を求める」心の動きであるから、この結果は土居の考えを数量的に裏付けるものであると言えよう。また、2つの状況のうち、精神的なダメージを受けた状況（B状況）で「甘え」の欲求が低かったが、この方が自我関与の度合いが強く、甘え難い状況と言えよう。特に、男子では、自我関与の強い場面で「甘え」の欲求が抑えられる傾向にあると考える。しかし、そう言明するためには、厳密には、各場面の自我関与の程度を数量的に検討するべきであろう。

### II. 対象の受容に関する予測についての考察

次に、対象の受容に関する予測の結果について考察する。両親、周囲の人間、あるいは社会全体が、女子の「甘え」については比較的受容的であると考えられるので、女子の方が受容に関する予測も肯定的になると考えられる。一方、男子では、生育の過程で両親や周囲から早く自立することを期待される。「男の子だから、しっかりしなさい」「男の子だから、泣いてはいけない」等の、「甘え」を禁止、あるいは制止する躰をも、女子より多く受けていると考えられ、その影響を受け、他者に対する期待感は、女子よりも低くなると言えよう。

また、「甘え」の欲求程顕著な差は認められなかったが、状況や対象の違いにより、自分を受容してくれるかの予測も、ある程度違っていた。父親対象の2条件間の比較では有意差が少なく、青年期では状況により、父親の受容の仕方が違ってくるとは、あまり感じていないようである。これは現実の父親の「甘え」の受容に関する態度が一貫しているとも解釈できるが、青年期男女が内的に抱く父親の受容に対するイメージが、あまり鮮明でないとも考えられる。さらに幾つかの状況を提示し、評定を求めることによって、この辺りははっきりするであろう。

### III. 自分が甘えることへの抵抗感についての考察

女子の方が自分が甘えることへの抵抗感が低かったが、その背景には、「甘え」の欲求や対象の受容に関する予測について考察した事柄と、同様の理由が考えられよう。男子は「甘え」に関する禁止や制止を多く受ける訳であるから、自分が甘えることについて、悪いことであるとか、恥かしいことであるとかいう否定的な感情を抱くようになり、抵抗感も強くなると考えられる。特に、精神的なダメージを受けた状況（B状況）などの自我関与の

強い場面では、年齢があがるにつれて、内的な「甘え」の禁止の圧力は強くなり、抵抗感が強まると予測される。

さらに、4条件の場面間の検定では、中学生よりも、高校生、大学生で条件間に多くの有意差があり、年齢があがるにつれ、状況や対象による抵抗感の違いが顕著になった。河合(1983)は、日本人の自我について、「あくまで他とつながっており、自分を主張するよりも他に対する配慮を基盤として依存している」と述べている。自我が成熟するに従って、日本人は他との兼ね合いを気にするようになり、甘えられる状況か、あるいは対象かを吟味する内的基準を形成してゆくため、抵抗感も微妙に違ってくると考えられる。

#### IV. 「甘え」に関する価値観についての考察

男子の方が価値観が有意に否定的であったが、男子は女子よりも「甘え」を禁止する躰を多く受け、それをとり入れたため、否定的な価値観をもつようになったと考えられる。同時に、女子の方が意識的な「甘え」の欲求が強いため、「甘え」や依存の重要性をより切実に感じているとも言える。

また、男女共、学校段階があがるにつれて、漸進的に肯定的な価値観へと傾いていったが、自我の芽生えの時期には、精神的な分離独立を果たさなため、周囲の大人達、特に今までほとんど無意識的に甘えていた父親、母親に対する「甘え」の心理は、一旦強く否定されねばならないのではあるまいか。そのため、第2次反抗期の只中にある中学生では、価値観もより否定的となるが、大学生位になると、精神的な分離独立もある程度達成され、一定の距離を保った上で父親、母親との新たな関係を形成しようとするため、かつて否定された「甘え」の必要性をも再認識し、価値観も肯定的となると考えられる。

#### V. 尺度間の相関に関する考察

「甘え」の欲求と対象の受容に関する予測の間には、性別や学校段階を問わず正の相関があり、特に女子で密接な関連があった。「甘え」の欲求が満たされるか、否かは相手次第であることを考慮すれば、対象が自分を受容的に扱ってくれるという予測ができる場合は、「甘え」の欲求も抑止されず、比較的強く認識されるであろうことは、想像に難くない。反対に、甘えたい気持ちが強い場合、対象が受容してくれるとの期待が強くなるとも考えられるが、どちらの仮説が正しいと決定できる訳ではなく、その時、その時により、「甘え」の欲求と対象の受容に関する予測とが、様々な形で作用していると言えよう。

「甘え」の欲求と自分が甘えることへの抵抗感については、学校段階があがるにつれて関連がみられるようになった。先にも述べたように、自我がしっかりと確立され、相手と自分とは別の存在であるとの認識が強くなるにつれて、他者への配慮が働くようになり、甘えることへの抵抗感をも、強く意識するようになると考えられる。そして、何らかの感情的なわだかまりがある場合には、「甘え」の欲求を意識的、無意識的に抑止するメカニズムが働くのではあるまいか。女子は、金銭的に困った状況(A状況)、精神的なダメージを受けた状況(B状況)共、男子よりも早い段階で、抵抗感と「甘え」の欲求の関連がみられるが、これは女子の方が自我の芽生えが早いためであると考えられる。

対象の受容に関する予測と自分が甘えることへの抵抗感の関連については、女子では、どの条件でも負の相関がみられ、対象が受容してくれると予測できる場合には、抵抗感

低くなる。つまり、女子ではかなり敏感に対象の受容に関する予測を行っており、それにより抵抗感も変化し、甘えられる場合には、比較的素直に、「甘え」を表現できる傾向にあると言えよう。一方、男子では、年齢があがるにつれて、両者の間には関連がなくなる。特に精神的なダメージを受けた状況（B状況）では、学校段階があがるにつれ、対象の受容に関しては肯定的になりながら、同時に抵抗感も強くなる傾向がみられる。男子では、受容の予測が肯定的であったとしても、即甘えとは限らず、「甘え」の心理はより複雑で、多くの葛藤を内包していると考えられる。

## VI. 総括

女子では甘えられるか、否かを吟味する内的基準は、他者基準であり、対象の受容に関する予測と強い関連があると言えよう。つまり、他者との相互関係により、「甘え」をどの程度受容してもらえるか判断し、比較的柔軟で現実的な対応をとるため、「甘え」の欲求も必要以上には抑止されず、より「本音」に近いレベルで甘えることが可能であると考えられる。男子では甘えられるか、否かの判断は、対象の受容に関する予測とはあまり関連がなく、躰により内面化された自己基準に影響されると考えられる。社会からの制約によって、「甘え」に関してより否定的な価値観を内在化したため、男子の「甘え」はより「建前」に支配され、限られた状況において、限られた対象にしか甘えられないと言えよう。

## 本調査の問題点と今後の課題

「甘え」に関する実証的研究が非常に少ないこと、「甘え」の心理の複雑さを極める性質故に質問紙の作成が大変難しいこと等が要因となり、この分野においては今後の課題は多く残されていると考える。

まず、「甘え」の欲求の評定の問題があげられる。男子は女子よりも精神的な自立を期待され、また自身もそれを希求するがため、意識的な「甘え」の欲求は抑止されやすく、より無意識的に甘えていると考えられる。本調査では、意識的なレベルで評定に臨んでいると考えられるため、より「建前」に近い部分で評定を行っており、「甘え」の欲求の全体像を掴んでいるとは言い難い。一方、女子では、欲求の抑止の程度は男子程でなく、より「本音」に近い部分で評定していると考えられるので、性差に関する考察を行なう場合、評定の意味内容に違いがある可能性をも考慮に入れねばなるまい。同じ意味で、年齢により、「甘え」の欲求を意識化する度合いは違い、単純に意識的な「甘え」の欲求を比べるだけでは、氷山の一角をみているに過ぎない。無意識的なレベルまで探ることのできる投影法的な検査を作成し、施行することが必要であろう。そうは言っても、意識、無意識の両面にわたった研究を行なうことは至難であり、だからこそ「甘え」の心理の数量化は難しいとも言えるが、両者の関連付けを除々に行なっていくことは重要であろう。また、依存の成熟という観点から、「甘え」の欲求の尺度を構成する試みがあっても良い。対象の受容に関する予測の尺度については、今回は受容的か、非受容的かという一次元的な検討を行なったが、「甘え」の心理の両面的性格を考慮し、2つの予測を別々に扱って検討してみることも重要であろう。「甘え」に関する価値観の尺度でも、肯定的、否定的という軸の一次元的な検討を行なったが、「甘え」の価値観には肯定、否定の葛藤が内包されているだけに、

一次元的な検討のみで説明がつく程、単純ではないとの批判もできよう。肯定、否定の二面性を検討することは必須であるし、因子分析の手法等を用い、多面的な角度から価値観について探ることも必要であろう。自分が甘えることへの抵抗感についても、本研究では「甘え」に関する感情的なわだかまりがあるか、否かを測定したのみである。今後は抵抗感の性質をも詳しく分類し、吟味する必要があるだろう。また、女子の抵抗感の得点は大変低かったため、床効果 (floor effect) が現われ、発達の差異が認められなかったとも考えられる。尺度の構成項目について、再吟味する必要もあろう。

次に、今回は対象も状況も2つずつであったので、今後はより多くの対象、状況における「甘え」の心理を解明する必要があるだろう。さらに、状況や対象により、複雑に変化する「甘え」の心理を細かくみていく上では、物語提示という試みは有意義であったと考えるが、大学生のエピソード調査で採集した内容が中学生、高校生に適切であったかは、検討の余地を残す。また、多くの状況を比較する場合、ストーリー展開や自我関与の程度の共通性について、細かく吟味することは不可欠であろう。また、物語形式は微妙な心理を綿密にみていくには利点があるが、その結果を一般化しようとする点と難点もあるので、こうした研究と平行して、大まかな状況提示による検討を行なう必要もあろう。

さて、本研究の目的は青年期を対象とし、比較的健康な「甘え」の心理を幅広く探ることであり、この目的には一応達したと考える。今後は「甘え」の心理のどこに焦点を当てるかを明確にし、深く鋭く分析を行なうことが大切であろう。

#### 引用文献

- 土居 健郎 1961 精神療法と精神分析 金子書房  
 土居 健郎 1965 精神分析と精神病理 医学書院  
 土居 健郎 1971 甘えの構造 弘文堂  
 藤原武弘・黒川正流 1981 対人関係における「甘え」についての実証的研究 実験社会心理学研究, 21, 53-62.  
 河合 隼雄 1983 大人になることのむずかしさ—青年期の問題— 岩波書店  
 木村 敏 1972 人と人との間 弘文堂  
 西園 昌久 1968 甘え理論 (土居) をめぐって 精神分析研究, 14, 11-13.  
 西園 昌久 1988 甘えの二重構造—母子関係理論への提言— 精神分析研究, 31, 261-273.  
 小此木啓吾 1968 甘え理論 (土居) をめぐって 精神分析研究, 14, 14-19.  
 祖父江孝男 1972 日本人の意識と国民性の変遷過程 鮑戸 弘・富永健一・祖父江孝男(著) 変動期の日本社会 日本放送出版協会  
 高橋 恵子 1968 依存性の発達の研究 I—大学生女子の依存性— 教育心理学研究, 16, 7-16.  
 高橋 恵子 1969 子どもの社会化過程と依存性 桂 広介他(監) 児童心理学講座 8 人格の発達 金子書房 Pp.89-136.

## 付 表

## I. 質問紙の刺激文

## A 状況の刺激文〈大学生用〉

友達とグアムへ行く約束をし、1年かけてお金をためた。パスポートを取り、航空券も買ったので、出発の1週間前には準備はすべて整っていた。それで気がゆるんだのか、初めて海外に行くのだからと、高価なカメラを衝動買いしてしまった。グアムでの交通費やホテル代を別にして、こづかいとして使える額を再確認すると、3万円程になっていた。旅行期間は5日間なので、食費を最小限に切り詰め、おみやげを買わなければ、何とか過ごせるが、それではみじめな気がした。もう少しこづかいがほしいが、アルバイトをする時間はなかった。どうしようと考え込んでいる時、父親（母親）に「元気がないな（ね）」と言われた。

## B 状況の刺激文〈大学生用〉

テニスのサークルに入っているが、1年上の先輩が引退したので、自分達の学年から次の試合に出る選手が選ばれることになった。選手は全部で8人だが、自分達の学年には部員が9人いるので、1人だけ選ばれないことになる。自分はテニスがとても上手ではないが、人一倍熱心に練習に参加していたので、選ばれることを期待していた。だが、期待に反して自分だけ選手になれなかった。その時は大変なショックで、目の前が真っ暗になり、その場からすぐさま逃げ出したい感じだった。自分がひどく惨めに思われ、絶望的な気持ちのまま家に帰ると、父親（母親）が「元気がないな（ね）」と言った。

## A 状況の刺激文〈中学・高校生用〉

クラスの友達何人かと、遊園地へ行くことになりました。手元にあったお金だけでは、足りなかったため、貯金を全部おろしました。お金はそろったので安心し、机の中にしまっておきました。でも、遊園地に行く前日になって、ついつい、前からほしかったレコードを買ってしまいました。行き帰りの電車代を別にして、遊園地でのおこづかいがいくらになるか、確かめて、乗り物には3、4回しか乗れなくなると気づきました。皆が楽しそうに乗り物で遊ぶのを、1人で見ているのはつらいと思い、自分のしたことを後悔しました。どうしようと考えこんでいると、お父さん（お母さん）に「元気がないな（ね）」と言われました。

## B 状況の刺激文〈中学・高校生用〉

テニス部に入っていますが、3年生が引退したので、2年生の中から、次の試合に出る選手が選ばれることになりました。選手は8人ですが、2年生の部員は9人いるので、1人だけ選手になれません。自分はテニスはあまり上手ではありませんが、練習には一番熱心に参加していたので、選ばれることを期待していました。けれども、期待は裏切られて、自分だけ選手になれませんでした。その時は大変なショックで、目の前が真っ暗になり、その場から逃げだしたい感じでした。自分がひどくみじめに思えて、絶望した気持ちのまま家に帰ると、お父さん（お母さん）が「元気がないな（ね）」と言いました。



II. 各尺度の構成項目

①「甘え」の欲求の尺度

- 1, 頼りたい
- 2, 何とかしてほしい
- 3, 甘えたい
- 4, わがままを聞いてほしい
- 5, 当てにしたい
- 6, 気持ちをわかってほしい
- 7, 泣きつきたい
- 8, 慰めてほしい
- 9, すがりたい
- 10, 面倒をみてほしい

②対象の受容に関する予測の尺度

- 1, 慰めてくれる
- 2, 甘えをたしなめる†
- 3, わがままを聞いてくれる
- 4, 相手にしない†
- 5, 甘えさせてくれる
- 6, 愛想をつかす†
- 7, 気持ちをわかってくれる
- 8, 冷たくあつかう†
- 9, 面倒をみてくれる
- 10, 甘えを拒絶する†

注) †は反転項目である。

③自分が甘えることへの抵抗感の尺度

- 1, 父親（母親）には、素直に甘えられない。
- 2, 父親（母親）に甘えると、自分は甘ったれだと思ひ、嫌な気持ちになる。
- 3, 父親（母親）に頼ると、自分が弱い人間だと感じられるので、嫌だ。
- 4, 父親（母親）に甘えると、迷惑をかけていると感じる。
- 5, 自分のために、父親（母親）に何かしてもらうのは苦手だ。

④「甘え」に関する価値観の尺度

- 1, 甘えたり、甘えられたりすることは、人と人がつきあう上で必要だ。
- 2, 相手が仲の良い人でも、甘えてばかりいてはいけない。†
- 3, 相手の気持ちを思いやることができれば、甘えても良い。
- 4, 甘えることは、自分のわがままを相手に押しつけることだ。†
- 5, 親しいつきあひの人に対しては、甘えてもかまわない。
- 6, 人に甘えず、自分のことは自分でやった方が良い。†
- 7, 安心して甘えられる人がいることは、心の支えになる。
- 8, いつも誰かに甘えられると思うと、人間はふまじめになる。†
- 9, つらい時や悲しい時には、誰かに甘えることも大切だ。
- 10, 甘えたり、甘えられたりすると、相手との関係は悪くなる。†

注) †反転項目である。